

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報 11月

生産者情報

一層役立つ情報となるよう、生産者の皆さんの実践状況や情報を記載して欲しいという意見がありましたので、今後は生産者の皆さんからの情報を載せるコーナーとしました。より充実した内容とするためには皆さんからの情報提供が必要ですので、どしどしお寄せください！！！！

| 品目 | 作型 | は種日 | 収穫日 | 備考 |
|-------|-----|--------|----------------|---------------------------------|
| 冬 菜 | ハウス | 11月22日 | 2月20日 収穫開始 | H16 トマト後作、無肥料 宮下周子さんからの情報です。 |
| シュンギク | ハウス | 10月28日 | 12月29日 収穫開始 | H17 栽培記録 ハウス内トンネル被覆 |
| ホーレン草 | ハウス | 10月29日 | 1月5日 収穫開始 | 標高530m 小林清二郎さんからの情報です。 |
| 四月しろ菜 | ハウス | 12月14日 | 2月13日 収穫開始 | |

●**継続は土づくりから**

～ 小林清二郎さんからの情報～

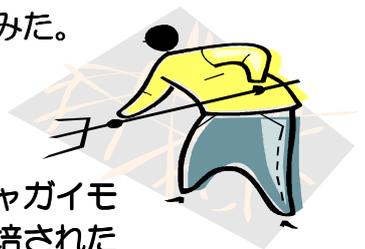
拘りのある農産物の栽培をしよう。そのためには土作り。
可能な限り減農薬栽培をしようとする有用微生物を用いた「ぼかし作り」に取り組むことにした。
土作りとは、人間の身体に必要な栄養素をはじめ微量要素を出来るだけ多く含んだ作物が生産されるための努力と信念の技。健康な土から健全（滋養豊富）な作物が育つ。
今の土壌は有機質資材が少なく化学肥料の多投が続き、まさにか弱い身体に栄養過多の現象で、作物の見た目はいいが中身は貧弱なため、病気になりやすい。薬剤の助けを受ける。
稲ワラ、もみ殻、残渣、畦草等の資材をぼかし（籾殻、米ぬか、おから、鶏糞、EM菌等から製造）と混ぜて有用微生物を繁殖させて土づくりに使用している。
野菜の出荷が終わる11月には1アール（30坪）へもみ殻100kg、残渣又は切りわら50kg、残渣をちらしたところへEMぼかし40～50kg施して耕運。
完熟堆肥が一番のお薦め品必ず有機質資材を入れましょう！！

●**私の失敗 ニンニクの種**

～ 柳沢寛さんからの情報～

昨年グリーンファームより種球を購入し、初めてにんにくを栽培してみた。
種が高いのには驚いたが、成績はよく立派なものがとれた。今年、作付け面積を増やし、自家産のたねで栽培した結果、植え付けた種より小さいものばかりで、正常なものはわずかで悲惨な結果だった。

このことを普及員にたずねたところ、ウイルスに弱い作物なので、ジャガイモと同様自家産のものは種には向かず、専門の圃場において完全管理で栽培されたものでなければ種球にならないことを私は初めて知った。



※以前の情報でお知らせしましたように、自家産の種球を使用したい場合は、栽培当初から病害虫防除を徹底し、病害のない種球とするとともに、大きな種球はその後の生育もよいことから大きな球を種球とするようにしてください。

櫻 井

【野菜の貯蔵方法】

●野菜が好む貯蔵条件は次のとおりです。

| 品 目 | 最適条件 | | 貯蔵可能期間 |
|-------|---------|---------|--------|
| | 温度 | 湿度 | |
| ハクサイ | 0.5～2℃ | 75%～90% | 1～2ヶ月 |
| キャベツ | 0.5～1℃ | 90～95 | 3～4 |
| ダイコン | 0.5～4℃ | 95～98 | 2～4 |
| ニンジン | 0.5～4℃ | 95～98 | 4～5 |
| バレイショ | 2～10℃ | 65～90 | 5～8 |
| タマネギ | 0.5～2℃ | 65～70 | 1～8 |
| サトイモ | 8～12℃ | 85～90 | 4～6 |
| サツマイモ | 13℃～15℃ | 75～85 | 4～6 |
| ヤーコン | 2～5℃ | 90～99 | 4～6 |

●主な品目の貯蔵の実際

◆ハクサイ・キャベツなどの葉物

排水のよいところへ深さ30cm位の溝を掘り、ハクサイやキャベツなどを根を上にして並べ、ワラ束で覆い上をビニールで覆う。その上に土などをかぶせ保温する。周囲の排水対策を忘れずに！！

実践例

収穫期になったハクサイを畑から収穫し、根・外葉は取らずにハウス内におき、被覆資材で覆って貯蔵。出荷時に根・外葉を切り取る方法で、12月初めに収穫し、1月上旬まで新鮮なまま出荷できた。・・・・・・・・小林清二郎さん談

◆さといも・さつまいも

病害虫の被害を受けたものは除いておく。もみがらを中間に10cm位入れて3層につむ。貯蔵適温が高いので、時々温度を計って点検する。

◆ヤーコン

水分が多いので、乾燥させないよう土付きのまま新聞紙で包みさらにビニール袋に入れてダンボールなどに入れて貯蔵する。

土壌診断のお知らせ

●土の状態を知るためには、土壌診断は欠かせません！！普及センターでは、原則として毎月第2水曜日に土壌診断を実施しています。土作りの際の目安として実施してみたい方は、風乾し篩ったものを第1週の金曜日までに提出してください。

なお、普及センターでは、CEC（塩基置換容量・・・肥料分を保持できる力の目安）りん酸吸収係数（土壌がりん酸を不可給化してしまう割合）の分析は行なっていません。

これらの分析やさらに微量元素等を分析したい場合は、長野県農協肥料株式会社で行なっていますのでJAを通じて申し込んでください。**但し、有料になります。**

(項目数によって1, 500円～3, 500円/点+手数料)

●分析土壌の採取

1筆の中の4～5ヶ所（四隅と中央）から採取します。表面の有機物などを取り除き、作土（表面から0～15cm）部分から等量の土をとります。（検土杖という器具を使うと均一に採取できます。希望の方にはお貸しします。）よく混ぜて新聞紙などに広げて日陰干しにし、土の塊などはよく砕いて篩いにかけて。土壌の量は、100g位あれば十分です。

ハウス内の土壌は、中央部分の肥料濃度が高くなる傾向にありますので、周囲と中央は別々に分析したほうがより役立つ分析になります。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
櫻井主任企画員 (TEL25-7157)